

## タム・リン

- 1 「金の飾りを髪につけた  
娘さん方  
若いタム・リンがいる  
カーターホーに行ってはなりません
- 2 「カーターホーに行つて  
金の指輪か 緑のマント  
そうでなければ乙女の純潔を  
奪われずにすむものはない」
- 3 ジャネットは緑のスカートを  
ひざの上までたくし上げ  
金髪をおでこで  
きりりとむすびました  
ジャネットは急いで急いで  
カーターホーへ行きました
- 4 ジャネットがカーターホーについたとき  
タム・リンは泉のそばにいました  
泉のそばにタム・リンの馬が見えました  
けれどもタム・リンの姿は見えません
- 5 ジャネットがバラの花を  
ほんの二輪も摘まぬうち  
タム・リンが「もうそれ以上は  
摘んではいけない」といいました
- 6 「ジャネット  
どうしてバラの花を摘む  
どうして僕の許しなく  
カーターホーにやってきた」
- 7 「カーターホーは私のものよ  
お父様が私にくれたのです  
カーターホーへくるために  
誰の許しも要りません」
- 8 ジャネットは緑のスカートを  
ひざの上までたくし上げ

金髪をおでこで

きりりとむすびました

ジャネットは急いで急いで

父の城へ行きました

9

二十四人のきれいなご婦人が

ボール遊びをしていました

かつてはみんなの花だった

美しいジャネットがやってきました

10

二十四人のきれいなご婦人が

チエスをしていました

美しいジャネットが

青い顔でやってきました

11

城壁の上に寝転んでいた

白髪頭の老騎士がいました

「ジャネットよ おまえのせいで

わしら皆が責められる」

12

「おだまりなさい 老いぼれめ

くたばってしまえばいい

誰の子供を産んだって

あなたには何の関係もない」

13

ジャネットの立派な父親が口を開いて

静かにやさしくいきました

「ああ かわいいジャネット

おなかに子どもがいるのでは」

14

「おなかに子どもがいるとしても

すべては覚悟の上のこと

おなかの子どもの父親は

お城の中にはいないのです

15

「愛する人は灰色の妖精ですが

たとえ愛する人が人間でも

本当の愛を

あなたの騎士にはささげません

16 「愛する人の乗る馬は

風よりも軽く

前足まえには銀の蹄ひづめをつけて

後足あとには燃えるような金の蹄ひづめ」

17 ジャネットは緑のスカートを

ひざの上までたくし上げ

金髪をおでこで

きりりとむすびました

ジャネットは急いで急いで

カーターホーへ行きました

18 ジャネットがカーターホーについたとき

タム・リンは泉のそばにいました

泉のそばにタム・リンの馬は見えました

けれどもタム・リンの姿は見えませんが

19 ジャネットがバラの花を

ほんの二輪も摘まぬうち

タム・リンが「もうそれ以上は

摘んではいけない」といいました

20 「ジャネット　こんなにきれいな緑の森で

どうしてバラの花を摘む

僕たち二人のかわいい子を

殺すことになるというのに」

21 ジャネットはいいました

「キリストにかけて

答えてください

あなたはキリスト教徒のですか」

22 「僕の祖父のロックスバラは

僕を引き取り一緒に暮らした

けれどもある日

この身に禍が降りかかった

23

「厳しい寒さが

身を刺す日

狩りから帰ってくる途中

僕は馬から落ちてしまった

緑の丘で暮らそうと

妖精の女王が僕をつかまえた

24

「妖精の国は心地よいところ

けれども気味の悪いことに

七年ごとに

地獄へいけにえを捧げるのだ

僕は色も白くて肉付きも良い

いけにえは僕に違いない

25

「今夜はハロウィン

明日が万聖節だ

僕を救い出してくれるかい

君には勇気があるはずだ

26

「妖精たちは真夜中に

馬に乗って出かけるはずだ

僕を救い出してくれるなら

マイルズ・クロスで待っていてくれ」

27

「どうしてあなたを見分けるの

今まで見たこともないような

たくさんの見知らぬ騎士の中から

どうやって恋人を見分けるの」

28

「黒い馬はやり過ぎ

茶色の馬もやり過ぎ

白い馬には急いで駆けより

乗り手をひきずりおろすんだ

29

「僕は白い馬に乗っている

町の一番近くを通るはず

僕は地上の騎士だったので

妖精たちはその名誉な場所を与えてくれた

30

「右の手袋ははめておこう  
左の手袋ははずしておこう  
帽子は上にずらしておこう  
髪は前に垂らしておこう  
それから愛の契りの品をあげよう  
必ず現れるから信じておくれ

31

「妖精たちは 君の腕の中で  
僕をイモリやマムシに変えるだろう  
それでもしっかり抱いて怖がらないで  
僕はおなかの子どもの父親だ

32

「妖精たちは 僕の姿を  
恐ろしい熊や強い獅子に変えるだろう  
それでもしっかり抱いて怖がらないで  
君が子どもを愛しているなら

33

「妖精たちは 君の腕の中で  
僕を真つ赤に燃える鉄の棒に変えるだろう  
それでもしっかり抱いて怖がらないで  
決して君を傷つけないから

34

「最後に妖精たちは 君の腕の中で  
僕を真つ赤に燃える石炭に変えるだろう  
そしたら僕を  
泉の水の中に投げ込んでおくれ

35

「そうすれば 僕は君の恋人に  
裸の騎士に変わるだろう  
そしたら 君の緑のマントで  
僕を見えないようにくるんでおくれ」

36

暗くて陰気な夜でした  
薄気味悪い道でした  
ジャネットは緑のマントに身を包み  
マイルズ・クロスへ行きました

37 真夜中になったころ

手綱の音が聞こえてきました  
手綱の音を聞いて ジャネットは  
有頂天になって喜びました

38 黒い馬をやり過ごし

茶色の馬をやり過ごし  
白い馬には急いで駆けより  
乗り手をひきずりおろしました

39 ジャネットは言われた通りにやりました

タム・リンは救われました  
恋人を緑のマントでくるみました  
春の小鳥のように楽しげでした

40 妖精の女王が

エニシダの茂みの中からいきました  
「タム・リンを救い出したあの娘は  
立派な花婿を手に入れた」

41 妖精の女王はいいました

怒り狂っていいました  
「あんな醜い顔は呪われるがいい  
非業の死を遂げるがいい  
私の家来の中で  
一番きれいな騎士を奪い去ったから

42 「タム・リンよ

こうなることがわかっていたら  
おまえの灰色の両目をくりぬいて  
木玉をかわりに入れればよかった」

(鎌田明子訳)